

平成28年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
<p>1 県工学びのスタンダードやSPH事業を推進する中で、確かな学力の向上を図るとともに、教師の授業力向上に努める。</p>	<p>① 県工学びのスタンダードを活用し、かつSPH事業にて育む資質・能力の育成を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>根拠を提示して論理的に主張できると回答する生徒の割合で判断する。 [新規] A 80%以上 B 65%～80%未満 C 50%～65%未満 D 50%未満</p>	<p><b>最終評価(D)</b> 生徒対象の学校評価アンケートにおいて、「授業等で発言するとき理由をつけて説明している」9%、「ややしている」38%であり、肯定的な回答は47%であった。生徒対象の授業評価アンケートの結果によれば、88%の生徒が「先生は考えさせる授業をしている」と回答している。授業において、思考する、考えることは行っているが、自分の考えを根拠を示して表現することに課題があるものと推察する。次年度は、教師が、発問の仕方を工夫し「県工ThinkingTime」を活用して、生徒が主体的・能動的に学習し思考を深め、表現する授業づくりを目的に授業改善を図る。</p>
	<p>② 生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>学校での補習や家庭での学習時間を1日1時間確保できているかどうかで判断する。 [継続] A ほとんど確保できた B 週に2～3回確保できた C 週に1回程度確保できた D ほとんど確保できなかった</p>	<p><b>最終評価(B)</b> 生徒対象の学校評価アンケートにおいて、A:17%、B:32%、C:34%、D:17%であり、判定基準としたA判定70%を大きく下回った。生徒対象の授業評価アンケートの結果によれば、79%の生徒が「予習・復習・補習・課題等に取り組んでいる」と回答しており、家庭学習に取り組む姿勢は身に付きつつあるものと推察する。 今後、教務委員会を中心として、県工生が主体的に学習に取り組むよう各教科連携のもと授業内容や課題の工夫を行う。</p>
	<p>③ 教師個人及び各教科にて積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。</p>	<p>教務課 全教員</p>	<p>日々の授業においてアクティブラーニングを意識した授業を行っているかどうかで判断する。 [改定] A 月に数回行っている B 月に1回程度行っている C 学期に1回程度行っている D ほとんど実施していない</p>	<p><b>最終評価(B)</b> 教師対象の自己評価アンケート(7・12月実施)において、A:前期39%、後期38%、B:前期36%、後期33%であり、判定基準としたA評価+B評価80%に届かなかった。生徒対象の授業評価アンケートの結果によれば、90%の生徒が積極的に授業に参加していると回答している。 次年度は、より一層のアクティブ・ラーニングの啓発・普及を図るため、各種研修や授業改善を行い、課題の発見・解決に向けて主体的・協働的な学びの実現を目指す。</p>
	<p>④ 授業の情報化および学力の定着が実感できる授業を目指し、ICT機器の活用を促進する。</p>	<p>学習情報課</p>	<p>年間に利用した平均値で判断する。 [改定] A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 2回以下</p>	<p><b>最終評価(A)</b> 教師対象の自己評価アンケートにおいて、利用回数5回以上:52%、4回以上:8%、3回以上:16%、2回以下:24%だった。使用回数の調査を行ったが平均すると一人10回は超えており、活用は進んでいる。 課題は、普通教室で利用する際の機器類の運搬、設置である。プロジェクター常設教室の増加、タブレットの使用等、今後、ICT機器の使いやすい環境を整備し、併せてICT機器活用およびコンテンツづくりに関する校内研修会を開催し、ICT機器の利活用の促進を図る。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・主体的・協働的な学びにはアクティブ・ラーニングの実践が必要であり、その実践には教える側のファシリテート力が必要である。教師が研修等で必要な資質・能力を身に付けて欲しい。また、ICT機器を効果的に活用することも大切である。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・生徒の主体的、協働的な学びを目指し、学習指導方針や学力スタンダードをもとに、アクティブ・ラーニングの実践により学力向上を目指すとともに、教員研修の充実によりファシリテート力、ICT活用力等の授業力向上を図る。</p>			

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 県工人間力スタンダードを掲げ、校訓による規範意識やマナーの向上等、将来の職業人としての意識の高い生徒の育成を目指す。	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	<p>挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 [継続]</p> <p>A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満</p> <p>前年比の減少の割合で判断する。(遅刻者数) [新規]</p> <p>A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増</p>	<p><b>最終評価( B )</b></p> <p>生徒対象の学校評価アンケート(7・12月実施)において、「取り組んでいる」+「やや取り組んでいる」の回答割合は、前期93%、後期92%であった。目標とした95%以上にあと少しのところでは及ばなかった。</p> <p>挨拶はコミュニケーションの始めの一歩であり、「人間力」の一つと捉える。次年度に向けて、学年・科・部活動と連携をとり、朝の登校指導をはじめ、いろいろな場面を通じて、全員が挨拶の重要性を認識し、自発的に挨拶ができるよう指導する。</p> <p><b>最終評価( A )</b></p> <p>生徒指導課によれば、4月～12月の遅刻者数を集計した結果、延べで249人であり、昨年同期の367人に比べて、32%減少した。</p> <p>今後も、生徒の基本的生活習慣を確立し、規範意識、モラルの向上のために根気強く継続的な指導を行う。</p>
	周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	<p>生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。 [改定]</p> <p>A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満</p>	<p><b>最終評価( B )</b></p> <p>生徒対象の学校評価アンケートにおいて、「積極的に取り組んだ」35%、「やや思う」51%であり、取り組みに肯定的な考えを持つ生徒の割合は86%であった。</p> <p>アンケートの取り方が若干異なるが、県工モノづくりワールド後のアンケートでは93%の生徒が「積極的に取り組んだ」と回答している。今後も、地域貢献活動を推進し、生徒にボランティア精神を育てていくよう継続して取り組みを行う。</p>
	② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	<p>違反指導件数減少の割合を目標とする。 [継続]</p> <p>A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増</p>	<p><b>最終評価( A )</b></p> <p>県警本部発表の自転車違反指導件数は、累計40件(12月末現在)で、昨年度同時期の46件に比べて6件、13%減少した。これは、生徒の規範意識の向上ならびに県警による交通安全教室および生徒会や部活動と連携した自転車乗車マナー指導等の効果によるものと考えられる。</p> <p>次年度は、違反件数の更なる縮減に加え、自転車事故発生件数(H27が22件、H28が17件、いずれも12月末現在)の減少に向け、校内各分掌および関係機関と連携し指導する。</p>
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間力は、体力や学力とともに生きていく上で必要な力であり、規範意識やマナーの向上等に継続した取り組みを求める。</li> <li>・交通ルール遵守や挨拶励行等は、社会人としても必要なことであり、将来の職業人を育成する県工は、毎日こつこつと指導をして欲しい。</li> <li>・更なる地域貢献の取り組み、ボランティア精神の育成に期待する。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業人としての意識の高い生徒を育成するため、一層の規範意識やマナーの向上を目指す。</li> <li>・継続して地域貢献の意識を向上させるため、学校周辺美化活動や除雪ボランティア等に取り組む。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3 就職、進学ともに確かな進路実現を図り、それに向けた資格取得や検定等に意欲的に取り組み、専門分野の技能向上に努める。	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 A 90%以上 [継続] B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	<b>最終評価( A )</b> 1社目受験者193人中内定者185人で、1社目受験で内定した割合は96%で、昨年より1ポイント減少したが、就職内定者数は11人の増加であった。次年度も生徒の職業意識を高め、万全の準備を行い、より多くの生徒が1社目受験で内定となるよう取り組む。
	② 専門分野の技能向上の一環として、課題研究の内容充実を図る。	工業7科	「良かった」と評価された割合で判断する。 [改定] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	<b>最終評価( A )</b> 来場者を対象としてアンケートを実施した。その結果、展示物(課題研究の内容)について、「よかった」:92%、「普通」:7%、「よくなかった」:0%であり、基準としたA評価90%以上を大きく上回った。特に、工芸科、デザイン科の展示物(制作作品)はとて好評であった。 また、自由記述意見には、「高校生の作品とは思えないほどハイレベルで驚いた」「コンセプトがしっかり書かれている」「生徒の説明が良かった」「受付の生徒がとても丁寧だった」等の高評価のものが多かった。
	③ 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7科 教務課	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。 A 60名以上 [継続] B 50名～60名未満 C 40名～50名未満 D 40名未満	<b>最終評価( D )</b> 全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰認定者は29人(特別表彰6人、ゴールド8人、シルバー15人)であり、昨年に比べ36人減少した。これら以外に、今年度後期において、ジュニアマイスター顕彰認定の申請ポイントに達しているにもかかわらず、申請しなかった生徒が、シルバーに16人いた。今後、資格取得指導と併せて、基準に達した生徒は必ず申請するよう、マイスター認定者の意義や価値を生徒にPRする機会をより一層設ける。
	④ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7科	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合は、大会出場の難易度で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した  [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した  各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 [継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	<b>最終評価( B )</b> 高校生ロボットアメリカンフットボール県大会 優勝 全国大会出場 B ジャパンマイコンカラリー2017出場 全国大会出場 B 高校生ものづくりコンテスト (旋盤部門) 北信越大会 3位 ブロック大会入賞 (電気工事部門) 県大会 3位 県大会入賞 (電子回路組立部門) 県大会 2位 北信越大会出場 (化学分析部門) 県大会 優勝 北信越大会出場  <b>最終評価( A )</b> 全国ソーラーラジコンカーコンテスト2016 in 白山 優勝 A (3連覇)  <b>最終評価( A )</b> 国土緑化運動育樹運動ポスター 中央審査 A 明るい選挙啓発ポスター 文部科学大臣賞 A 平成28年度デザインパテントコンテスト 優秀賞 A 全国きものデザインコンクール 金沢市長賞 A 小中高校生によるデザイン画コンクール 県繊維協会会長賞 高校生ファッションデザインコンテスト2016 グランプリ賞
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>1社目受験での就職内定率96%は素晴らしい。進路指導等の指導の積み重ねの成果と考える。県工の強みとして、外部へ発信して欲しい。</li> <li>「県工展」でのSPHポスター発表は先端的な分野の発表で驚いた。また各種制作物の展示は、見応えがあり「さすが県工」と思った。</li> <li>各種コンテストで上位入賞しているが、県工の専門性の高さを示す指標の一つになっており、今後もいろいろなコンテストに参加し、上位入賞を目指して欲しい。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの個性に応じた、適切できめ細かな進路指導を継続し、進学・就職ともに進路実現を図る。</li> <li>今後も工業高校3年間の集大成として課題研究に真摯に取り組む、課題発見力、解決力、探究心の育成を図る。</li> <li>各種資格取得やコンテスト入賞に向けて、各教科・学科が連携し、学校全体でサポートする体制を充実させていく。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
4 部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	<p>各学年の部活動の加入率で判断する。 [継続]</p> <p>A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満</p> <p>県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) [継続]</p> <p>A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下</p>	<p><b>最終評価(A)</b></p> <p>部・同好会加入率は、1年生 98.8%、2年生 98.4%、3年生 95.0%、全体 97.3%で、A評価を達成した。(昨年：1年生 95.3%、2年生 96.8%、3年生 93.7%、全体 95.1%)。</p> <p>ここ最近、高い加入率を維持している。年度当初の加入の呼びかけや、退部者への転部等の働きかけが功を奏していると思われる。次年度以降も積極的に部・同好会への加入を推進し、学校全体の活性化につなげていきたい。</p>
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	<p>保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。 [継続]</p> <p>A 90%以上 B 75%～90%未満 C 60%～75%未満 D 60%未満</p>	<p><b>最終評価(A)</b></p> <p>保護者対象の学校評価アンケート(12月実施)において、「行事が充実していると思う」61%、「やや思う」37%であり、肯定的な回答は98%であった。</p> <p>学校行事に対する満足度は判定基準とした90%を超えており、Aと判断する。しかし、数字に甘んずることなく、次年度においても、行事内容等の更なる改善が必要と思われる。</p> <p>生徒の意見、要望を集約するとともに保護者の意見等も参考にし、今後も内容の濃い有意義な学校行事の企画・運営を図っていきたい。</p>
	③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	<p>歯科受診済の生徒の割合で判断する。 [継続]</p> <p>A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満</p>	<p><b>最終評価(A)</b></p> <p>う歯未処置者の受診完了率は、31.7%(96名/303名)に到達した。</p> <p>今年度8月末までの、受診完了率は、12.9%だったが、度重なる受診勧告や掲示物等、生徒のヘルスリテラシーやセルフケアの意識を高める取組によって30%を超える結果になった。しかしながら、約70%の生徒は受診を完了しておらず、今後も継続して健康づくりへの意識を高め、受診完了率100%を目指したい。</p>
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率が高く、北信越大会や全国大会に多くの部活動が出場し、活発に活動している様子がうかがえる。競技成績の向上とともに、生徒の健全育成のため、心や身体をしっかり鍛えて欲しい。</li> <li>保護者から学校行事が充実していると評価されているが、高校3年間は「貴重な3年間」であり「一生忘れられない3年間」である。卒業生が卒業後に「良い3年間だった」と思えるような学校になって欲しい。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動は、学校活性化のために重要な取組であり、専門高校における活力の源の一つである。今後加入率の向上はもとより、なお一層の成績向上を目指す。</li> <li>より多くの生徒が学校行事、学校生活全般に対して満足感が持てるよう、生徒の意見や要望を集約し、生徒会を主体に企画・運営について常に改善を図る。</li> </ul>			